

首都圏直撃台風

冷夏による不作に追い討ちをかけるように台風十一号が首都圏を直撃、房総半島をかすめて太平洋側ぞいに北上した。幸い強い勢力のままでの上陸、直撃は避けられたが交通網への影響や農作物への被害がでた。

このところ本格的な台風の首都圏への直撃はなく大きな被害がでていない。かつては昭和三十三年の狩野川台風では東京が水浸しになるほど浸水被害がでているし、戦後間もなくはキティ台風による風水害、カスリン台風による利根川の大洪水としばしば台風災害に出会つていている。

昭和二十年代から三十年代の半ばにかけては東京でもキティだとか台風13号とか強い風を伴つた台風が何度も襲来し、屋根のカワラが薄暗い空に舞つて子供心に恐ろしかった記憶が残つていて。

首都圏に大きな被害をもたらす台風としては狩野川台風やカスリン台風のような兩台風と強い台風が関東地方を縦断する風台風とがある。風台風の典型は駿河湾から沼津

上陸や相模湾から小田原に上陸し関東地方を斜めに横切つていくいくコスとキティ台風のように掲(から)めての八丈島のほうから北上して東京の西側をまっすぐに北上して日本海に抜けるコスとがある。どちらも台風のコスの東側や南東側の風の強い危険半円に首都圏がスッポリはいり、最悪の場合は高潮による大きな被害がでてしまう。

昔から比べれば防災面での充実が飛躍的に良くなっているが、反面都市化による高度情報社会、高速交通網など雨や風によるもろさも目につく。狩野川台風の時は東京都心の大手町での一日の雨量が三九二・五ミリの豪雨となつて東京の半分が水没し下町では三ヶ月の浸水被害がでてしまつた。

この豪雨記録は依然として破られておらず第二位の記録を大きく引き離なしている。首都圏にはこの三十数年、甚大な災害をもたらす伊勢湾台風クラスの台風も来ておらず、狩野川台風の雨台風も来ていない。昨年の台風十九号は三十年ぶりの強い風による被害が発生している。決して油断は禁物である。

(村松 照男)